

森のなかま・飼育スタッフ

憧れの飼育係

皆さん初めまして。4月から到津の森公園で勤務している「東條裕子」です。神奈川県からやって来ました。

動物園で働くことが私の小さい頃からの夢でした。小学生の頃にはウサギやハムスターなどを飼い、学校でも飼育委員をして私の周りにはいつも動物たちがいました。

休日には父に頼み、よく動物園へ足を運んでいました。本やテレビでしか見たことがない動物たちが目の前にいる感動！私にとって何ものにも変え難い体験です。動物園の飼育係を目指すようになったのはこのようなことがきっかけです。

学生の頃には地元の動物園でボランティア活動をしていました。動物の前に立って、その動物について説明をするといった内容です。このような経験を活かしつつ、これからは来園していただく皆さんに、動物が持つ能力の素晴らしさや面白さを伝えていきたいと思っています。

動物たちは天気によって、そして季節によっても様々な表情を見せてくれます。見方を少し変えるだけで動物園は何倍も何十倍も何百倍も楽しくなります！

疑問があれば、ぜひ私たち飼育係に聞いて見て下さい。

こんな私の担当はマンドリルとオウム・インコたちです。

まだまだ勉強不足ですが、一生懸命頑張りますのでこれからよろしくお祈りします☆

飼育展示係：東條裕子



花暦 水無月

先日、花の公園に有毒ケシが植えられていて、大騒ぎになったというニュースが流れました。

多分皆さんも一度は目にされた事があるのではと思われま。

春から夏にかけ、ピンクの花びらで底は虹色のぼかし。直径6cm位の花をつけます。丈は高くても80cm位、つぼみは下を向き、車のゆき交う道の端などに、あでやかでしかもおらしい風情もあるこの花は「アツミケシ」。とても女性ファンの多い花であります。

でもわずかながら果実にモルヒネ成分を含む為、麻薬取締りの対象となっており、保健所によって刈り取られ、市内で群生する姿は見られなくなっていました。

それでも郊外の農家の花畑には手入れをされて、咲き誇っている姿を見たものですが、もう刈り取られてしまったかもしれせん。

園内で見られる野生のケシといえば、同じく外来種のナガミヒナゲシですね。橙色の可憐な花は本来直径は5cm位あるのですが、乾燥した市街地では2cm位で、条件によって極端に大きさが違い、だんだん小さくなっている気がします。

最近はヒナゲシをはじめ園芸種のケシ達もポピーと呼ばれる可愛い品種ばかり。

漱石の小説「虞美人草」のヒロイン藤尾を思わせる妖しい美しさのケシが見られなくなったのは、とても残念に感じる初夏のおばさんでした。



文：花咲くおばさん